

平成23年3月11日 東日本大震災

仙台都市圏及び仙台市における 公共交通の復旧と課題

平成23年7月15日

仙台市総合交通政策部長

岩崎裕直

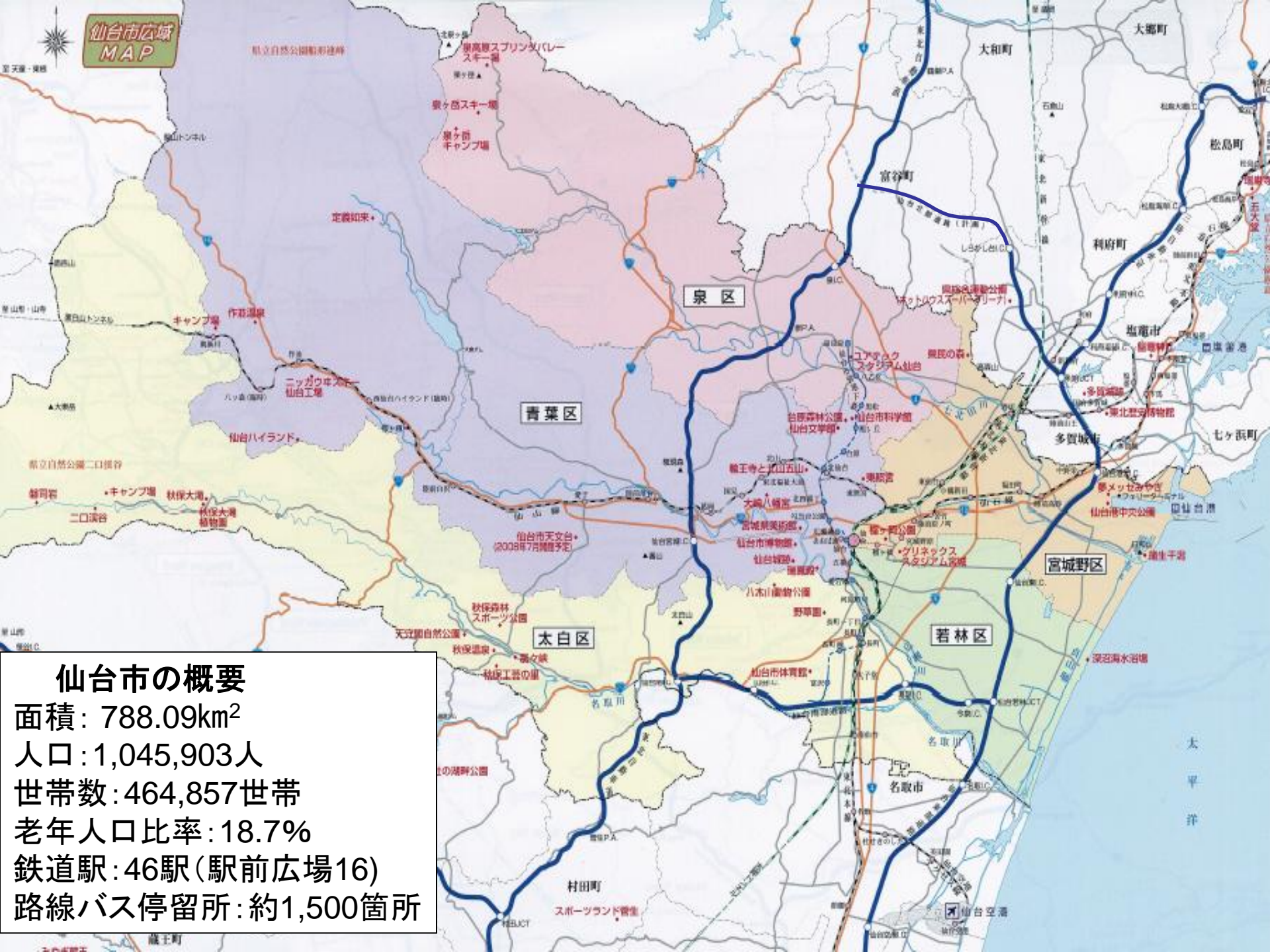
報告のポイント

はじめに

- 1 被災状況
- 2 公共交通の被災状況
- 3 新聞から見える課題
- 4 新たな取り組み
- 5 復旧・復興への課題

はじめに

仙台市広域MAP



仙台市の概要
面積: 788.09km²
人口: 1,045,903人
世帯数: 464,857世帯
老年人口比率: 18.7%
鉄道駅: 46駅(駅前広場16)
路線バス停留所: 約1,500箇所

地震概要(気象庁)

- 発生日時 平成23年3月11日 14:46ころ
- 震央地名 三陸沖(北緯38.1度、東経142.9度)
- 規模 マグニチュード9.0(暫定値)
- 市内震度 震度6強 宮城野区
// 6弱 青葉区、若林区、泉区
// 5強 太白区
- 津波 3月11日14:49 太平洋沿岸に大津波警報発令
(3月13日17:58 津波注意報 解除)
- ※最大余震 (4月7日23時32分頃) マグニチュード7.1 宮城県沖
震度6強 宮城野区 震度6弱 青葉区・若林区
震度5強 泉区 震度5弱 太白区

1 被災状況

人的被害(仙台市内)

死者 704名(氏名が分かった方)

行方不明者 39名

負傷者 2,273名(把握できたもののみ)

平成23年7月8日第75報より

建物被害(仙台市内)

全壊 : 17,539棟

大規模半壊 : 9,477棟

半壊 : 22,132棟

一部損壊 : 38,007棟

平成23年7月13日第76報より

市内被害額の概要

平成23年7月15日現在

被害推計額 約1兆300億円

○市有施設関係：約3,400億円

- ・ライフライン関係(水道・ガス・下水道等) 1,857億円
- ・都市基盤関係(地下鉄・道路橋梁・公園等) 1,198億円
- ・生活衛生関係(廃棄物処理施設等) 27億円
- ・建築物関係(学校・市営住宅・庁舎等) 386億円

○その他(市有以外)公共施設：約1,450億円

○住宅・宅地：約2,600億円

○農林水産業関係：約700億円

- ・農地、農業用機械等 約500億円
- ・漁業関係 約8億円

○商工業関係：約2,150億円

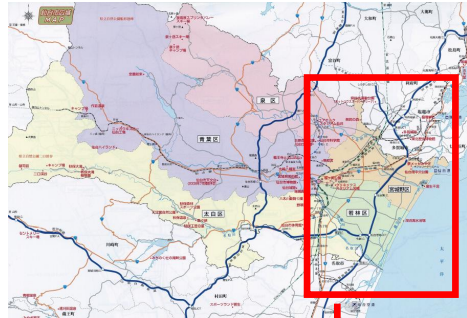
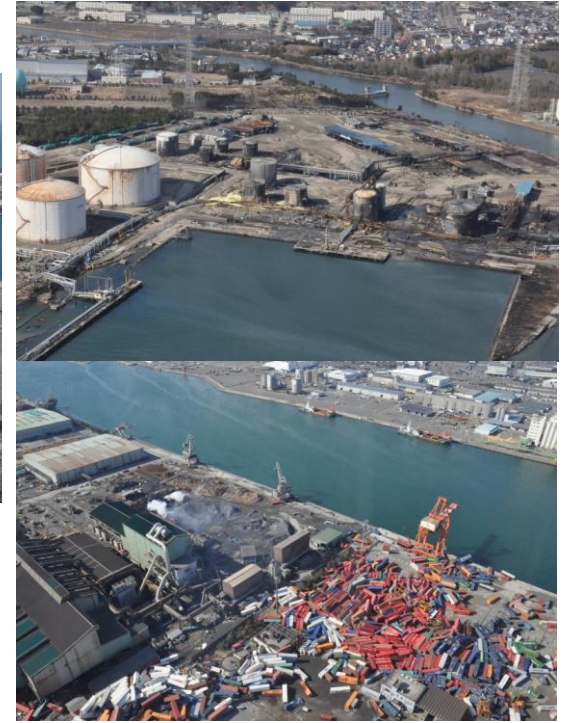
(有形固定資産並びに製品在庫等の被災状況から想定)

※これらは概算額の推計であり今後の精査により大きく変動する可能性がある

※概数であるため合計額が一致しない場合がある

沿岸部の被害状況(1)

仙台港付近



仙台港

宮城野区蒲生付近



沿岸部の被害状況(2)



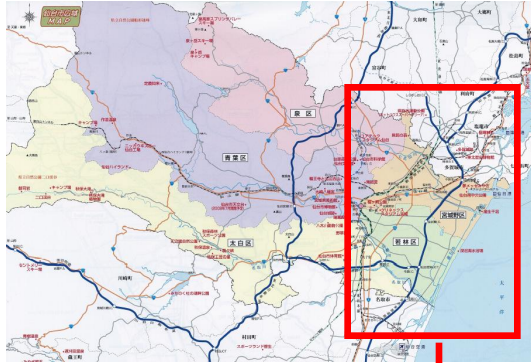
宮城野区岡田付近



若林区荒浜



沿岸部の被害状況(3)



太平洋沿岸部



水田の被害状況(1)

海水が冠水したままの水田(若林区荒浜)

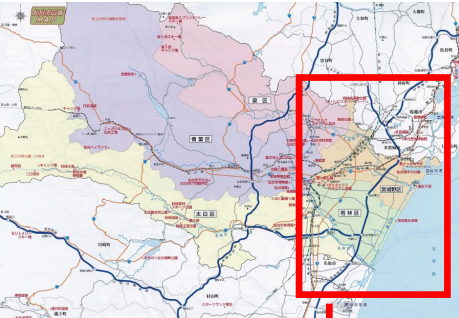
荒浜小学校付近



若林区荒浜



土壌サンプル採取



水田の被害状況(2)

宮城野区岡田



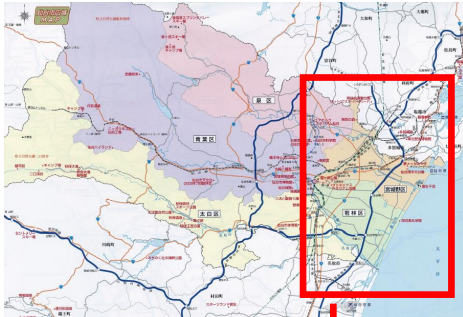
高砂南部排水機場
(宮城野区蒲生)



若林区種次(名取川近辺)



若林区種次(東部道路近辺)



公共施設の被害状況(1)

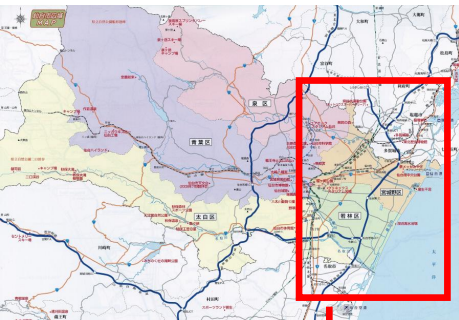
ガス局港工場



南蒲生浄化センター(下水処理施設)



消防ヘリポート



宅地の被害状況(1)

太白区緑ヶ丘



宅地の被害状況(2)

青葉区高野原



青葉区折立



2 公共交通の被災状況

(各交通事業者提供写真含む)

公共交通1



地下鉄南北線八乙女駅付近

公共交通2



仙台空港線被災状況

公共交通3



東北新幹線仙台駅及び高架橋電柱破損

公共交通4



ミヤコーバス気仙沼営業所及び津谷車庫

公共交通5



JR仙石線中野栄付近及びJR常磐線坂元駅

公共交通6



仙台市交通局岡田出張所

3 新聞から見える課題

(地元新聞紙のスクラップより)

新聞から見える課題①



新聞から見える課題③

河 北 新 幸 辰

平成23年(2011年)3月20日(日曜日)

東日本大震災で津波の直撃を受けた仙台
中宮城野区の仙台港の上空。ヘリコプター
を戻させながら、震災時に炎上した石油
ガス施設に機首を向けた。
すっかり黒焦げたコンテナトが火炎の
猛威を物語る。空き缶を踏みつけたように



レール寸断貨車無残

仙台港・石油ガス施設

変形した姿が不気味だ。
ハイラインから石油製品を運ぶ仙台臨
海鉄道のタンク貨車は、あらかじめ脱線
ながら横転、ぐにやりと曲がり寸断された
レールと不規則に横たわる緑色の車両が無
残だ。18日午後9時30分ごろ、仙台港

新聞から見える課題④



ガソリンを求めて行列をつくる一般車両＝29日、仙台市宮城野区

ガソリン不足 いまだ解消せず

東日本大震災が半月以上たった今も、宮城県内などで深刻なガソリン不足が解消されていない。供給量は回復しつつあるが、各地への配送やガソリンスタンド(GS)の態勢で直ぐ追い付かない状況。店舗では緊急車両優先で一般車の給油を制限しているケースが多く、満タムを求める消費者の焦りが顕著に拍車を掛けている。

◇ ◆ ◇

仙台市宮城野のガソリンスタンドでは29日、早朝から整理券を求めるドライバーで長い行列ができた。同区の会社員土田浩さん(44)は「1回に20リットルしか入れられず、満

タンにならない。通勤にならないうと、中泊の増加が重なり、需はどうか、なかなか手に入らないと嘆く。ガソリン出荷は徐々に改善している。29日までは塩釜、八戸、小名浜の各港にタンカーが次々と入港。東北経済産業局によるとガソリン、軽油の灯油の東北の出荷量合計は1日約4万4000リットル(26日現在)で、前年同期の88%まで戻った。市民にガソリンが広く行き渡らない理由には、

宮城県は、営業可能

営業可能なGS少ない
緊急車両や車利用増加
各地への配送効率悪い

消費者の焦りも影響

またガソリン、軽油の灯油の東北の出荷量合計は1日約4万4000リットル(26日現在)で、前年同期の88%まで戻った。市民にガソリンが広く行き渡らない理由には、

宮城県は、営業可能

塩釜港油槽所からタンクローリーへ

給油を3時間延長

元売りの一部

東北経済産業局は29日の宮城県災害対策本部会で、石油元売りが一部の燃料をタンクローリーに給油する時間を1日15時間から3時間延長したと報告した。

豊田清治局長は「効果がかかるまでには時間がかかるが、徐々に正常化するはず」と強調した。塩釜港では既に大型タンカーの入港が可能になり、元売り各社のタンクローリーの台数も震災前

の水準まで回復した。しかし給油時間が限られ、効率的な燃料配送の障害になっていった。塩釜港には28、29日

ガソリン計1万1000リットルが運び込まれた。村井嘉浩宮城県知事は対策本部会議で「被災前の1日の使用量3600リットルを大きく上回るガソリンが入ってきている。国などの努力が数手として表れてきた」と評価した。

新聞から見える課題⑤

仙台地下鉄 一部再開

仙山・仙石線の不通続く 3/4 (火) 河北

◇地下鉄・バス
 仙台市交通局は14日、東日本震災の発生直後から休止していた地下鉄南北線の運行を一部再開した。仙台駅では震災後、初めて出勤する会社員らが足早に職場に向かった。市交通局によると、通常と比べ利用者は少なく、混雑や運行トラブルの発生はなかった。

仙台駅で降車し、宮城野区福岡の勤め先に向かった青葉区の会社員土井康裕さん(30)は「いつも利用しているJ-R仙山線と仙石線が不通のため、地下鉄が止まっていたら相当な距離を歩かなければならなかった。本当に助かった」と話した。

宮城野区の会社員前田昌仁さん(41)は念のため、水の入ったペットボトルを持参して通勤した。「同僚に連絡をとり無事を確認できたが、泉中央駅前にある職場がどうなっ

ているかわからない。業務も再開できるかどうか」と話した。

駅構内の売店では、通勤客らが飲み物などを買い求める姿も見られた。

販売員の砂子節子さん(53)は「午前6時半から店の片付けと並行して販売を始めた。ペットボトル入りの水やキャラメルなど甘い物が売れている。震災後やっと買い物できた」と喜んでくれる人もいた」と話した。在庫がなくなるまで営業を続けるという。

地下鉄は富沢一宮原駅間を約8分間隔で運行する。台原一泉中央駅間は直通の無料バスを運行している。切符やバスカードは販売しているが、定期券の発行は対応を検討中。

◇J-R
 宮城県内のJ-R在来線は14日も、全面的に運転を見合わせる。



東日本震災の発生から22日朝、仙台市内の交通が複雑した。富沢一宮原間の鉄のつら、青葉区の台原一宮原間の不通も、最初の3連休明けと通機関は通勤客で大混雑して運行している市地下鉄は乗車待ちの市民らで、乗客からは、交通の混乱が近く、混雑がひどいという声も聞かれた。

地下鉄・バス大混雑

仙台通勤客、1時間待ちも

はいつまで続くのかという声も相次いだ。

台原一泉中央間で休止している市地下鉄、台原駅は泉中央駅発の無料代替バスからの乗り継ぎ客も加わり、市交通局によると待ち時間は最大約1時間上った。震災から一定期間が経過し、通勤客が増えた影響とみられる。

順番待ちをめぐる客同士のトラブルも起きたため、市交通局は出入口を一方所に制限。その結果、出入口までの行列は午前9時には500メートルに達した。

泉中央駅発のシャトルバスで台原駅から地下鉄に乗り込んだ泉区の会社員佐司直子さん(43)は「泉中央駅でも混雑、1時間半かかった」といふ。宮城野区富沢町のアルハイム教習士鶴子千代さん(58)は「通勤先がさうから業務再開なのに、泉区の男性社員員60は「交通の混乱はいつまで続くのか」と困り果てた様子で話した。地下鉄では、長町、長町南の駅でも入場制限を行った。

運行路線が増えた市バスも、不通となっているJ-R線駅の停留所と市中心部などを結ぶ路線が混雑した。市交通局によると、仙石線降車高砂駅ではバスの乗車待ちの客が駅前広場に同道待ちまであふれたという。

地下鉄台原駅で代替バスからの乗り継ぎ客が長蛇の列をつくった。14日午前9時50分ごろ、仙台市青葉区

新聞から見える課題⑥

2011年03月17日

アト

コヒ

朝日

朝日

朝日

2011年

人、人、人 待つバス代替

通勤に行列1時間半

地下鉄不通の泉中央駅

仙台

震災のため仙台市地下鉄運行する代替輸送の無事会社員が自立して、個人が通勤する。市民町駅に出入りしない。とされた。仙台市は、市民町駅に出入りしない。とされた。仙台市は、市民町駅に出入りしない。とされた。

泉中央駅は、市民町駅に出入りしない。とされた。仙台市は、市民町駅に出入りしない。とされた。仙台市は、市民町駅に出入りしない。とされた。



バスを待つ通勤客の行列。仙台市地下鉄泉中央駅。3月17日午前8時30分ごろ。仙台市地下鉄

4 新たな取り組み

避難者の状況

	青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区	合計
3月11日 20:00	49箇所 17,199人	30箇所 19,614人	29箇所 15,614人	31箇所 11,847人	32箇所 7,283人	171箇所 71,557人
3月12日 11:30	83箇所 27,624人	37箇所 28,177人	40箇所 20,449人	54箇所 19,371人	44箇所 10,326人	258箇所 105,947人
3月19日 17:00	37箇所 2,091人	40箇所 5,325人	32箇所 5,087人	16箇所 916人	16箇所 572人	141箇所 13,991人
4月15日 9:00	5箇所 70人	5箇所 916人	15箇所 1,403人	3箇所 90人	1箇所 54人	29箇所 2,533人
5月10日 9:00	4箇所 44人	5箇所 762人	8箇所 1,034人	3箇所 67人	1箇所 28人	21箇所 1,935人
6月15日 9:00	1箇所 4人	4箇所 394人	7箇所 481人	2箇所 21人	1箇所 6人	15箇所 906人
7月8日 9:00	0箇所 0人	1箇所 65人	6箇所 221人	1箇所 5人	1箇所 4人	9箇所 295人

※第7報、第10報、第18報、第51報、第58号、第68報、第75報より

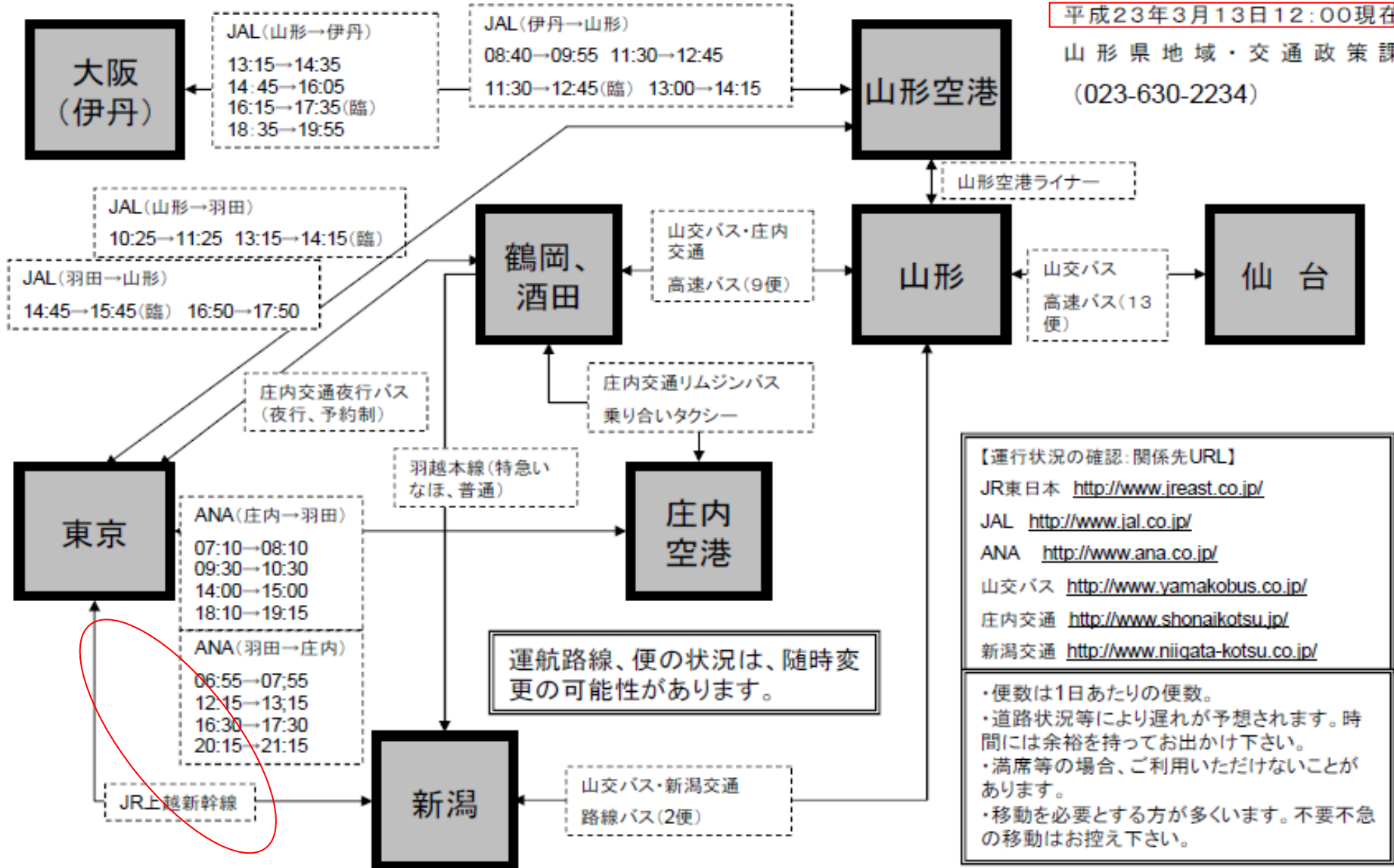
5 復旧・復興への課題

代替輸送と利用情報 I

仙台、東京、大阪、新潟方面と山形間の公共交通による移動手段

平成23年3月13日 12:00現在

山形県地域・交通政策課
(023-630-2234)



公共交通復旧状況(1)

○市営バス

- 3月12日 ほぼ7割の路線で運行、
地下鉄運休のための代替輸送を実施(13日も)
- 3月13日 主要幹線路線を不定期運行開始
- 3月14日 主要幹線路線で30分～1時間間隔で運行
 - ・地下鉄台原⇔泉中央で無料シャトルバス運行開始
- 3月28日～ 休日ダイヤで全便運行
- 4月18日～ 始発便から通常運行再開

○地下鉄

- 施設被害→八乙女駅上屋の鉄骨アンカー破断。北側半分が崩落の可能性
- 3月12日、13日 運休(市営バスでの代替輸送)
- 3月14日 富沢⇔台原で運転開始
 - 台原⇔泉中央は無料シャトルバスで代替運行
- 4月 1日 黒松⇔旭ヶ丘⇔台原各駅間無料バス運行
- 4月29日 全線再開

公共交通復旧状況(2)

○JR線 震災後 JR仙台駅 被害により立ち入り禁止
3月21日 東西自由通路の通行再開

東北新幹線 4月12日 東京⇔福島 運転再開
4月27日 福島⇔仙台 運転再開

在来線

3月28日仙石線一部再開	}	×4月7日余震
3月31日東北線一部再開		
4月4日 仙山線一部再開		
4月12日以降、仙台⇔近郊順次再開		
※仙台⇔一ノ関・岩切⇔利府		4月21日再開

復旧・復興の課題(まとめ)

1 避難(帰宅困難者)等防災対応不十分

2 燃料の不足

3 代替輸送手段の不全

4 利用情報ツールと周知の不十分

復旧・復興への課題(自転車)

◎自転車通勤が急増＝ガソリン不足で切り替え―仙台

時事通信3月25日

東日本大震災で燃料不足とJRの全面運休が続く仙台市で、自転車通勤が急増している。朝の歩道には自転車がひしめき、事故も増加。自転車販売店によると、震災後は通常の3～5倍のペースで売れており、在庫切れの店舗も続出している。

通勤ラッシュの25日午前8時。仙台市中心部の道路では自転車が競い合うように走っていた。

自転車に乗るのは高校生以来という男性(37)は40分かけ通勤。「朝から一仕事しているようでつらいです」と話した。会社から自転車を支給されたという女性(25)は「通勤時間は2倍以上だが、適度な運動になっている」と白い息を吐いた。

仙台市立病院によると、震災後の週明け14日ごろから自転車事故によるけが人が増え、地震で生じた道路の亀裂にタイヤを取られる事故などが目立つという。(了)



写真: 交通機関の運休とガソリン不足で自転車通勤する人たち＝25日午前、仙台市宮城野区

ともに、前へ 仙台

皆様からの暖かいご支援ご協力に感謝申し上げます